

児童が進んでコミュニケーションを図ろうとする外国語活動

福岡県岡垣町立山田小学校 教諭 築地 宏文

小学校6年 外国語活動 プレキシ英語

番組の特徴

小学校5・6年生対象の全編英語表現での番組。すしのキャラクターや海外ロケなど子どもの興味をひくものが多く、単元で学習する表現をテーマとして、児童が楽しみながら英語に慣れ親しむことができる。

研究の概要

外国語活動では、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成が求められている。その方法の1つとして、番組を活用し、単元で学習する表現や海外の様子について親しむことができるように、実践を進めた。番組の視聴によって、コミュニケーション活動がより活発になった。また、学習した表現を用いて、児童が自信をもって楽しみながら友達とコミュニケーションを図る姿が見られた。

授業デザイン（1 単位授業時間）

単元：Lesson 4 Turn right. 「道案内しよう」
目標：目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

導入	Warming up はじめのあいさつ 基本表現を確認し、ゲームをする
課題把握	友達を道案内しよう
番組視聴	第40回 手順は任せて 英語表現：Go straight. 内容：指示や命令をする、聞く(2)
活動準備	「道案内をするときに大切なこと」を確認 ・はっきり言う ・ジェスチャー ・スマイル ・顔（目）を見て
表現に親しむ	学習する表現に慣れ親しむ コミュニケーション活動に向けて、表現に親しみ、活動の流れを知る。
コミュニケーション活動	「友達を道案内しよう」 学習した表現を使い、教室を街に見立てて、ミッションカードをもとに友達を目的地まで道案内する。



番組や関連動画クリップの活用意図

学習する英語表現を何度も聞くことができる

テーマとなる英語表現について、アニメーションの中で繰り返し聞くことができる。また、海外ロケやスピーチなどの場面で使われている様子を視聴することで、楽しみながら何度も聞くことができる。

アニメーションだけを繰り返し視聴できる

コミュニケーション活動を活発にするため、番組のアニメーションの部分を繰り返し視聴し、「道案内をするときに大切なこと」を確認した。

授業デザインにかかわる教師の工夫

コミュニケーション活動で大切なことを確認

相手を道案内するときには、相手の目を見たり、大切なことははっきり言ったりすることが大切である。友達同士でのコミュニケーション活動をさらに活発にするために設定した。

目的意識をもたせる工夫

ミッションカードをもとに道案内ゲームに取り組んだ。「大安売りだからスーパーへ」のように、児童が目的意識をもって取り組めるよう工夫した。

コミュニケーション活動の視覚化

児童が自信をもってコミュニケーション活動ができるように、学習した表現を掲示し、視覚的にとらえられるように工夫した。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- 相手に道を教えたり、教えてもらったりして、楽しかった。
- となりの席の人や友達にしっかり道を案内することができた。
- 番組はストーリーがあるので楽しみながら学べた。

評価シートから（実践前後で有意差が見られた項目は以下の通りである）

- 学習のめあてをしっかりとつかむことができる。
- 友だちと協力して、学習することができる。
- 友だちと教えあうことができた。

同僚の評価

- 子ども達が積極的に楽しんで外国語活動の授業に参加する姿が素晴らしいと感じた。

実践を終えて

番組を活用し、学習する表現を繰り返し聞くことによって、英語に慣れ親しむことができた。そのことによって児童が自信をもって、楽しみながらコミュニケーション活動することにつながったと考える。また、「道案内で大切なこと」を確認したことで、活動時には、それまで以上に相手意識をもって取り組む様子が見られた。年間を通して継続的に視聴することで、児童の英語を聞く力が育っていると感じている。これからも取組を続けたい。